

令和2年度カスケード及びその周辺の管理について

西内良・信太千帆・高山信明

はじめに

カスケードでは、鉢・プランター・大型コンテナ・ハンギングバスケット、花壇（委託花壇及び自主花壇）・立体花壇（グローバル）を使用して季節の草花等を常時展示している。

植栽について

カスケード周辺から正面ゲート及び、周辺花壇に植え付けた植物は表 1-1、1-2、2-1、2-2 の通りである。

展示状況

4 月は例年通りチューリップとパンジー、ハナナ‘春陽’といった暖色系の春らしい暖かさを感じさせる品目を中心に展示した。また今春はキンセンカを例年より多く導入した（‘コーヒークリーム’、‘スノープリンセス’、‘シトラスクリアオレンジ’）。これらは中輪で草丈が 30-40cm であり、側枝も発達するのでコンテナ栽培における使い勝手が良い。

5 月の連休明けから 6 月下旬にかけては、「ひろしま はなのわ 2020 スポットイベント」として、広島に本拠地をおく球団である広島東洋カープのイメージカラーである赤い花を用いて、広島らしさを感じさせる演出を行った。まず、カスケード階段部にベゴニア‘ビッグ・デラックス’の銅葉レッドおよび緑葉ローズを、併せて約 400 株並べ、階段を上る鯉のモザイク画を描いた。また、ベゴニア‘F1 トップハット’を約 100 株用いて、音符をモザイク画で表現した。これらのベゴニアは 3.5 号鉢サイズの苗を導入後、4 月下旬に 6 号鉢に植え付け、紅白の不織布で鉢を包んで装飾した。そして、事前に作成した配置図通りに鉢を並べた。しかしながら、階段の踏み面の巾が場所によって異なったため、来園者の視点を配慮しながら、現場にて配置を修正した。また、ベゴニアのモザイク画の周りの陶器製大鉢やプラスチックコンテナはキンギョソウ‘ソネット カーメインローズ’約 300 株を展示した。これらは 10 月上旬に播種、11 月に摘芯と 6 号鉢への鉢増し、3 月下旬に 2 度目の摘芯を行い、4 月中旬から 10 日間隔で液肥を 2 回与えて育苗した。見頃は 5 月中旬であった。同じ品

種を 4 月上旬に追加で播種し、5 月に 1 度の摘芯をして育苗した結果、先行して展示したものと入れ替える形で 6 月上旬から 6 月末まで展示することができた。この品種は大きな鉢に植え、摘芯して枝数を増やしておく、花後に開花枝を切り戻すことで、遅れて着蓄していた側枝および花芽の充実が進み、約 10 日～14 日後に開花した。以上のように、このキンギョソウ‘ソネット カーメインローズ’は 5 月から 6 月末に展示する素材として使いやすく、次年度も使用予定である。

7 月以降はデュランタやハイビスカス、タイタンビカス、サンパチェンスなど、夏を感じさせる植物を展示した。これらに加えて今年度は、カラーリーフ系カンナなどを導入し、大鉢づくりをテーマにした。その目的は次のとおりである。①梅雨明け以降～9 月中旬の期間は太陽光の照り返しが強く、カスケードは高温となり、入園者は早々に通り抜けていく。そのため売札を抜けた際に見える風景の第一印象を重視する。②大鉢づくりをすることで灌水タイミングに余裕を持たせる。③鉢数を減らして灌水の手間を減らし、バックヤードにて苗の育苗にリソースを割く。なお、この方針は次年度も継続する。

9 月中旬から 11 月上旬にかけては、再度「はなのわ 2020 スポットイベント」として、広島のサッカークラブ、サンフレッチェ広島のクラブカラーである紫色のペチュニアおよびサルビアを中心とする展示を行った。これらは 6 月中旬に播種および挿し木を行い、摘芯、鉢増しを繰り返して開花を遅らせたものである。全体的に開花調整は上手くいった。この時期に使用した花材として、サルビア‘ビッグブルー’の 12 号鉢栽培は見ごたえがあった。また多くの蝶が吸蜜のために飛来したことで、良い写真撮影スポットとなった。

秋に展示する苗の育苗は、猛暑期間の灌水の手間を減らすためにこれまでは避けており、9 月中旬に花苗を購入し僅かな育苗期間で 10 月から展示という方法をとっていた。しかしながら、夏に大鉢やカラーリーフ中心の展示を行い、カスケードにおける花がら取り、鉢の入れ替え、灌水等の作業時間を減らすことができれば、夏場でもバックヤードで育苗することが可能となる。これに加えて、梅雨時期に挿し木して 8 月上旬までは遮光栽培するものや、8 月上旬の播種で 10 月に開花するといった発芽後開花までの期間が短い品種を選ぶことで、展示する植物の選択肢が広がる。次年度はこの形で夏の作業の省

表 2-1 ハンギングバスケットの展示植物と展示期間

植物名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
ハンギング	パンジー‘マリボサ’												
	ジニア‘プロフェュジョン’												
	パンジー‘よく咲くスマレ’												
大型ハンギング	エリカ‘ホワイトデライト’+ハボタン‘ブラチナケール おどり’+ハボタン‘アンサンブル’+オカメツタ+パンジー‘絵になるスマレ パルム’+ムスカリ‘ドッグスマイル’												

は展示期間

表 2-2 自主花壇、グローバルの展示植物と展示期間

植物名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
展望塔横	フレンチラベンダー												
	ユーカリ												
レストラン下	パンジー‘よく咲くスマレ’												
	ペゴニア‘F1トップハット’												
	ヒマワリ‘サンフィニティ’												
	ジニア‘プロフェュジョン’												
花時計	パンジー‘マトリックス・オレンジ’												
	ランタナ‘スーパーランタナ’												
	パンジー‘よく咲くスマレ・マーマレード’												
正面ゲート横	パンジー‘よく咲くスマレ’												
	ペチュニア‘タイダルウェーブ・シルバー’												
	ヒマワリ‘サンフィニティ’												
	ペンタス‘グラフィティ’												
グローバル下	チューリップ+ノースポール+シロタエギク												
	ナデシコ‘F1テルスター’												
	ペンタス‘グラフィティ’												
グローバル	パンジー‘よく咲くスマレ’												
	ペゴニア センパフローレンス												
	ペンタス‘グラフィティ’												
	マリーゴールド												
ケヤキ下(ペゴニア温室への案内板付近)	パンジー+シロタエギク												
	ペゴニア‘F1トップハット’												
	アリッサム+シロタエギク												
その他	サルビア・レウカンサ												
	カンナ												
	チェリーセージ												

は展示期間

森のレストラン前花壇のリニューアルについて

西内良・信太千帆・高山信明
・島田有紀子・小川恒彦

リニューアル経緯

令和2年3月より、「ひろしま はなのわ 2020」を開催されるにあたり、当園でも春のスポットイベントとして、森のレストラン前花壇の植栽面積を拡大、および盛り土により丘を擁する花壇へとリニューアルして、フォトジェニックな風景を演出することとした。なお、スポットイベント時の花材はネモフィラ‘インシグニスブルー’、その後、夏季はヒマワリ‘サ

ンフィニティ’、秋季はコスモス‘センセーション’を定植した。

行った作業を以下に記す。

造成およびネモフィラ定植 (1月上旬~1月下旬)

- ①真砂土 15 m³、バーク堆肥 6 t、そして9月よりバックヤードに溜め置いた鉢植えの残土 (約 12 m³) を森のレストラン前花壇に搬入。
- ②旧「花の迷路」時の土手、パーゴラ周囲の土をバックホウとホイールローダーで削り取りながら、丘の土台として集積。
- ③①で搬入したものをホイールローダーで振り分ける。
- ④トラクター1台、小型耕うん機2台で耕うん後、レーキにて整地。